

令和5年度4年生
昨年度の授業改善プランについての成果と課題

国語→週に1度日記の宿題を出し、文章作成能力向上に努めた結果、文章量の増加が見られた。半面、段落や句読点など文章作成時の決まりについては、未だ身に付いていない児童も多い。

算数→基礎的基本的な計算が身に付いていない児童が多く見られたため、習熟度別学習でも丁寧に復習を行いながら学習に取り組んだ結果、1学期と比べテストの成績が50点以上上昇した児童が複数いた。まだ、かけ算九九が身に付いていない児童もおり、課題が残った。

理科→理科学習の基礎として、問題、予想、実験、結果、考察、結論の流れを発達段階に合わせて実践を行った結果、自分の考えをノートに書くだけでなく、根拠や理由を自分なりに示しながら学習に取り組める児童が増えた。次年度を見据えて、実験器具の取り扱い方について、一層丁寧に指導を行う必要がある。

社会→学習の流れが身に付いた。特に導入を工夫し、児童の興味を引くことができるように教員の経験や児童の経験したことのある事例を多く用いて学習に臨んだことで積極的に挙手、発言する児童が増えた。課題としては、調べ学習を行う際に、使用する道具や範囲を狭めても、調べるだけで自身の知識と関連付けて考えることができない児童も多くいた。

I 大田区学習効果測定の調査結果と概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≒：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	△			▼			△			▼		
観点別	△	△	△	▼	△	△	△	≒	≒	▼	≒	▼
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

国語・算数の正答率は目標値を上回ったが、理科・社会の正答率は目標値を下回った。特に、理科の正答率は60%を下回る結果となっている。

2 観点別

4教科ともに思考・判断・表現における正答率が目標値を上回る、もしくは、同程度の正答率となっている。また、社会・理科の知識・理解、理科の主体的に学習に取り組む態度の正答率が目標値を下回っている。特に、理科の主体的に学習に取り組む態度については40%を下回る結果となっている。

II 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科

【国語】

国語科はすべての観点で目標値を上回る結果となった。領域別にみると、「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」についての正答率が80%を超え、得意とする領域であることが分かる。一方で、「情報の扱いに関する事項」「書くこと」についての正答率が50%程度と課題があることが分かる。情報と情報の関係について理解し、考えとそれを支える事例との関係について整理する学習を通し、情報を正しく理解し、それを扱っていけるようにしていく必要がある。また、自分の考えやそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く経験を重ねながら、書くことへの苦手意識を軽減するとともに、書くことに前向きに取り組める児童を育てていきたい。

【社会】

社会科は主体的に取り組む態度の正答率が目標値を大幅に上回る結果となっている。しかしながら、知識・理解の正答率が目標値を下回っているため、基礎・基本となる学習内容が身に付くように指導方法を工夫していく必要がある。基礎・基本となる学習内容が身に付くことにより、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度もさらに高まることが考えられる。なお、領域別にみると、「市の様子の移り変わり」が60%を下回り、他の領域の正答率から大きく離されている。地図帳やデジタル教材を用いながら、土地の様子についての学習を振り返ることを通し、学習内容の定着を図りたい。

【算数】

算数科はすべての観点で目標値を上回る、もしくは、同程度の結果となっている。領域別にみると、「データの活用」についての正答率が85%を超え得意としていることが分かる。一方で、「測定」についての正答率が60%程度とさらに学習を積む必要があると感じる。実際に用具を操作して測る活動や単位換算の学び直し等を行い、長さや重さ等の測定領域に関する既習内容の定着を図り、そのうえで、新たな知識が積み上がるようにしていきたい。

【理科】

理科がすべての観点で目標値を下回る、もしくは、同程度の結果となっている。すべての領域において課題がみられる。既習内容を振り返り、知識を身に付けるとともに、それを活用して、思考・判断・表現する学習を積み上げていく必要がある。実験用具の操作等、今後の学習でも必要となる学習については、早急に振り返りを行いたい。

2 音楽・図工・家庭・体育・外国語

	児童の実態	おおむね良好：○ 改善が必要：△	授業改善プラン
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童がリコーダーや歌唱の練習に積極的に取り組んでいた。 ・裏声で歌うことが難しい児童が数名いるが、出し方は理解している様子である。 ・既習である楽譜の読み方や音楽記号を、ほとんどの児童が忘れてしまっており、身に付いていない。 ●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表することに積極的で、互いの発表よく聴き、良い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ △ 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での響きを感じさせながら、裏声が出しやすい曲を練習する。 ・教室に掲示する等して、既習事項をおさえていく。

	<p>所を見つけることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で習ったり、教師が示したりして一度練習したことのある方法については積極的に取り入れているが、自分たちの考えや新しい表現をすることには消極的である。 <p>●主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して意欲的に取り組み、テスト等を実施すると休み時間も音楽室に来て練習する姿が見られている。 	<p>○</p> <p>△</p> <p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の用語を指導に取り入れるよう心がけ、児童が自分たちで工夫できるよう促す、
<p>図工</p>	<p>●知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材に対して、つくり方を理解し、創造的な作品をつくらうとしている。 <p>●思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えることが苦手な児童が多い。 ・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することが苦手な児童が多い。 <p>●主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色や形に関心を持ち、粘り強く取り組む児童が多い。 	<p>○</p> <p>△</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発想が広がるような題材を準備し、取り組ませる。 ・作品のめあてを意識させ、それにあつた振り返りや鑑賞ができるように指導する。また、鑑賞に適した語彙を提示する。 ・児童が興味をもち、意欲的に取り組み、深く追究できる題材を用意する。
<p>体育</p>	<p>●知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守り、安全に気を付けながら、友達と協力して運動に取り組むことができる。 ・これまでの経験から「できる・できない」を自分で判断し、取り組む前に諦めてしまうことがある。特に器械運動領域の場面でその姿が顕著に見られる。 <p>●思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して取り組むなかで上達したり成功したりする経験を積むことができた。 ・得意・苦手、上手・下手等に関わらず、互いに意見を出し合い、よりよい活動や学習にしようとする姿勢が見られる。 <p>●主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れやルールを明確に理解し、主体的に運動に取り組むことができる。 	<p>○</p> <p>△</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもつ児童も挑戦できるように、個別に課題を設定し、解決できるような学習過程をたてる。 ・毎授業ごとに振り返りカードを記入して自己を見つめることができるようにする。